

FADO

60

Abril 2010

こそ
昨年の春 摘みて飾りし野の花を

引き抜くこの手の おぞましくもあり

告白

今まで何となく思っただけなのですが、私はあの方が好きなのであって、あの方のご両親とか家柄とかはどうでもいいのです。たとえ高貴な生まれの方であろうと、持たざる者の方であろうと。私はあの方に私の人生を賭けたのです。心変わりをする必要もなく私はひたすらあの方を求め、愛し続けたのでございます。私の人生はあの方なしには考えられません。ただそれだけでございます。

あの方の名前はファドと申します。

日本語に訳すと「運命」という、あの方の名前からにして、私を魅了するに十分だったのでございます。

今年は、日本ポルトガル修交 150 年ということで、さまざまなイベント、ツアーが企画されているらしい。私にも参加の要請が何件か来た。そのたびに、世間様から忘れられていないという安堵感とともに、そのような催しものに参加する必然性の欠如を感じた。一体それはなぜだろう？

今日、その答えがはっきり見えた。150 年だろうが 10 年だろうが 1000 年だろうが、私にはどうでもいいことなのだ。はたまた「天正遣欧少年使節団の帰国から 420 周年、慶長遣欧使節団の帰国から 390 周年となるシンボリックな年」だとのたまうお方に、端数じゃだめなの？そう問いたくなった。

私は、そういう人たちから一線を画していただきたいのです。少しでも遠ざかってほしいという思いがひしひしと湧いてくるのでございます。そう、私はあの方が好きなのです。運命という名のあの方が。ただそれだけなのでございます。

運命は、好むと好まないにかかわらず私たち誰もものが携えているもの。虫や動物はそれを自覚することはないだろう。それを携えながら、時にそれと闘い、時には抱きしめながら、私たちの行く手を照らしだす灯り、それがほんの小さな灯りであろうがそれを手立てに私たちは歩いてゆく。その先に待っているのは「死」であり「無」であるのを知りつつ。そう思うと人間という存在が、今、同時代に生きている人たちが、消えていった命たちが無性にいとおしくなる。

立ち止まって考えたこと

ちょっと風邪気味で、久しぶりに朝寝をしながら考えた。

「ともかく月田さんにリスボンに連れて行ってほしいのです。一緒にファドを聴きに行きたいのです。サウダーデの思いに触れる、もしくは、浸りたいのです。せめてこの世を去る前に、一度でいいから」そんな熱い声をファンの方から聞くことがある。私はそれにこたえることができるのだろうか？ 団体をひきつれどろどろと現地のファドの店に行く、ましてやそこでしゃしゃり出て歌うなどと、想像しただけで逃げ出したい。

年一回のリスボン詣をしなくなって 2 年になる。ファドを歌う日本人が次から次へとリスボンへ行き、ファドを歌うようになってから、私の足はなおさら遠のいた。いつしか私は日本の片隅で好きなファドを歌い続けられたらそれでいいと思うようになった。

いつかもっと私のリスボンへの思いが枯れて、サウダーデに変わった時、力むことなく自然体でポルトガルへ行けるようになるような気がする。そんな時は、気の置けないファンの皆様にお声をかけますね。それで許してくださいように。

こう書いたら肩の荷がすっと軽くなりました。

お礼

このたびの還暦特集号にちなんで寄稿して下さったファンの方々に礼を申し上げます。と同時にこれまで読み続けてきて下さったファンの皆様にも礼を申し上げます。長い間、月田の「ひとりごと」にお耳を傾けてくださってありがとうございました。

当 60 号をもって、会報に区切りをつけるつもりだったのですが、一号では載せきれないほどのご投稿を頂き、これらのご投稿の掲載を終えた時点で会報を終わらせたいと思います。それまで月田の「ひとりごと」にお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

特集「会報還暦 60 号に寄せて」

< 其の巻 >

出会い以来をふり返って

高島 正博（大阪）

もう 30 年も前のこと、大阪梅田新道のシャンソニエ「ベコー」で、月田さんのシャンソンを聴いたのが最初の出会でした。デビューして間もない頃のこと、いずれ底光りを放つであろう原石の魅力が彼女にはありました。また、歌われる曲も、曲想とともに詞の内容に手ごたえのあるものを選ばれていました。しかし、シャンソン歌手として研鑽を積まれる中、いつしかファドに惹かれ、ファドのパイオニアの道に入って行かれましたが、その選択は、私のような古くからのファドファンにとっては大変嬉しいことでした。

ファドという音楽市場が未成立の状況下、創始者の苦労は大変のようでした。年一回の大きなコンサートとは別に定期的に出演できるお店を求め、神戸に向かされる月田さんに、神戸出身の私はご一緒したことがありました。不成功であったその日の帰り、月田さんは「今月の家賃が払えない・・・」とぼつりともらされたことを憶えています。しかし、そんな時期でも月田さんには、ファドというミューズの神に殉じようとする、そんな心意気を感じられました。

その後、ずいぶん努力され、大阪、京都でのライブの定着に成功、また、豊かに繊細に磨かれていった月田さんの表現力とファドの魅力が相俟って、ファディスタ月田秀子のファンは、着実に増加、名実ともに日本を代表するファド歌手の地位を確立されました。尚、

月田さんの関西時代の歴史として、ジャーナリストの故黒田清氏をはじめ様々なジャンル、経歴の方々がそれぞれに月田さんを応援なさっておられたことが思い出されます。

東京に移られてからは、自ずと月田さんの状況に疎くなりますが、月田さんは活動の枠を大きく広げながらも、明暗さまざまな経験と苦勞をなされたものと推察します。大変な難病を患い、その最悪の状況を乗り越えられた昨今の月田さんには、何か人生のひとつの大きな山を越えた人が持ち得る成熟さを感じられ、それが歌にも表れているように思えます。

90 年代に入り、音楽のグローバル化の影響もあってか、現地のファドの多様化、変容が語られますが、生粋のファドの洗礼を受け、そのうえで作り上げた月田秀子のファドの世界をますます深めていってほしいと、古くからのファンのひとりとして願ってやみません。

通信簿をもらう生徒のような気持ちで読ませていただきました。30 年間見守り続けてくださってありがとうございます。私は、高島さんから、何よりも歌の歴史的社会的背景を知って歌うことの大切さを学ばせていただきました。（月田）

可愛らしかった月田秀子

坂井 定雄（千葉）

月田秀子のファドを初めて聞いたのは、京都での小さなコンサートだった。たしか、20 年前の 1989 年だったと思う。月田さんは G パン姿で、とても可愛らしかった。いま、還暦を迎えられると聞いて、「え、あの時 40 だったの!？」。それ以来、ファドと月田さんの熱いファンになった。

そのころ京都でコンサートやライブをずいぶん聞いたが、月田秀子の歌と、加藤登紀子の「酔いどれコンサート」だけを覚えているだけ。

それ以来「本場でファドを聞きたい」と思っていたが、念願がかなってリスボンを訪れたのは一昨年だった。ファド・クラブ（レストラン）を 5 か所まわったが、なにか違和感というかしっくりこなかった。アマリアと月田秀子が感性に染みついているからなのか、観光業すぎるのが気になったからなのか。最後に行った 20 人も入れないような小さなレストランだけが、街のオジサン、オバサンが次々に出てきて歌ってくれ、とてもいい感じだったけど。

送っていただいた「月田秀子 Collection2」を聞きながら書いています。ライブの雰囲気に満ちていて、と

ても素敵です。これからも、ますますお元気で、歌い、飲み続けてください。

はい、大いに歌い、飲み続けてゆきたいと思います。私の目標は、GパンにTシャツの似合うおばあちゃんになることです。余り可愛らしくはないかもしれないけど。(月田)

40年来の友人として

齋 恵子(埼玉)

ファドジャーナル60号おめでとうございます。

0号からのジャーナルの束を取り出してあらためてコツコツと続けることの偉大さをかみしめています。

どこにいるのかと探していた中学、高校と一緒だった友人の“月ちゃん”がファド歌手に？と半信半疑のまま駆けつけた大阪フェスティバルホールでのコンサートでの再会から16年。いつも何かメッセージをと思いつつ、他の月田秀子ファンの方々の魂を揺さぶるような月田秀子への熱いエールを読むたびにひるんでしまうのです。

難病のカミングアウトにも驚き、心配しつつも遠くから見守ることしかできない私です。様々な人や出来事との出会いや別れを重ねてつくづく“生かされる”ことの意味を考えます。折角の人生、精一杯、そして楽しく生きましょう。

どうかこれからも歌い続けてください。私のように、ひとりひそやかにファドの世界をさまようファンがいること忘れないでね。そして、時間があったら遊びに来て下さい。その時は40年来の友人として。

幼い頃の友達は幾つになっても卒業写真のように仲良く並んでいる。元気で老後を迎えようね。(月田)

素晴らしい出会い

古屋 美佐子(小諸ユースホステル)

今から14年前、“ゆいまーる”という長野の名物喫茶で「ファドという音楽があるよ」と聞かされ、紙のケースに入った一枚のCDを買い求めました。それが月田さんの声との初めての出会いでした。タイミングよく、直後に私の住んでいる小諸の近くの丸子の音楽堂で月田さんのコンサートがあり、早速足を運びました。月田さんの深紅のビロードのような落ち着いた美しいアルトの声と唄に私は惹きこまれてしまいました。そこで思い切って、コンサート終了後にファンの方に囲まれてサインをしている月田さんの隙を見計らって「うちでライブをしてください!!」とお願いしまし

た。そんな突然のお願いに、なんと「あら、いいわよ」月田さんは快く応えてくださったのでした。となりに「なんて図々しいやつだ!!僕だって頼みたいのに」と複雑な表情をしている男性がいたのを今でも覚えています(ごめんなさい)。

その年の11月から、わが小諸ユースホステルでのライブが始まりました。たくさんの方々が全国各地から集まり月田さんの唄に酔いしれました。

それから14年、一回だけあいてしまったけれど、ずっと素晴らしい歌声を小諸ユースホステルの小さなホールで聴かせてもらっています。聴きに来て下さる方たちも毎年晩秋ライブを楽しみにしてくださっています。

ちなみに私たちの小諸ユースホステルでは春の「新井英一ライブ」、初秋の「小室等フォークライブ」そして晩秋の「月田秀子ライブ」を小さなホールで毎年企画し、聴きに来て下さったお客様とともに贅沢な時間を過ごしています。月田さんに教えていただいたポルトガルの鱈のコロッケも今では、ライブ後のパーティーのおつまみの定番になっています。いつかポルトガルの街角のバルでつまみたいものです。

月田さん、これからも心にしみる歌声を楽しみにしてこの小諸の地で待っていますよ。

美佐子さんお互いに、「共白髪」という言葉がよく似合う年頃になりましたが、今年も11月6日、「小諸ユース」の白い看板から玄関へのあの道にカラマツの絨毯が敷きつめられる頃に寄せていただきますね。これからは、ユースというよりは、ユアーズ、と言った方が近いかもね。ファンの皆様、今年こそ小諸ユースでお会いしましょう。ライブが終わったら美佐子さんのお手製のコロッケとおでん、ワイン、みんなが持ち寄ったお酒と肴、ほろ酔いで星空を眺めるもよし、二段ベッドにもぐりこむもよし…。(月田)

月田秀子のファドと私

佐野 和子(大阪)

滋賀県在住のT氏から、ファドを歌われる月田秀子さんを教えて頂いたのは13年前のことでした。T氏は、当時「三裕の館」の小川土風さんと「能勢の家」で遊んでいらしたお仲間だったのです。

娘はドゥルス・ポンテスの東京コンサートに行ったりしておりましたが、私にとっては月田さんがファド初体験でした。私は初めて聞いたファドに心が震え、毎月のように「三裕の館」でのライブに通いました。

こんなにも強烈に生の人生を歌声に込められる秀子さんに圧倒されたこともあります。何よりも月田さんのお声が好きで魅了されました。アルコールを受け付けない体質の娘と私でしたが、赤いポルトガルワインをグラスの底に4~5センチ程注いで貰い、数滴づつ舐めるようにして月田さんのファドに聴き入り、心も体も深々と満たされて深夜の家路を辿ったものでした。20人か30人でいっぱい店内、体のすぐ傍で響くポルトガルギターと月田さんの歌声、なんと贅沢な夜だったことでしょう。サンケイホールなどあちこちのホールでのコンサートにも伺うようになりましたが、何と言っても私には「三祐の館」が原点でした。

13年間色々なことがありました。土風さんが亡くなられ、土風さんのお別れの会にご一緒した陶芸家の植かよ女さんまでもあっけなく土風さんの元に逝ってしまわれました。私たち母娘を月田さん、土風さん、植さん達に結んで下さった大恩あるT氏は、3年前癌の大手術の末こちらの世界に戻って来て下さり、昨年の大正アゼリアのコンサートにはご一緒に伺うことができました。

月田さんが辛く苦しい中でもがいていらした時期は、私もひたすら頑張るしかない日々の只中で、「ファド倶楽部会員」であり続けることしか出来ないことが本当に申し訳なく思われました。思いもかけぬ病魔と闘っておられることも会報で知り、切なくて祈るような思いで遠くから見つめておりました。最近やっと自分の時間も持てるようになり 大正アゼリア、堺能楽堂と、月田さんにお会いできる機会も又少しづつ増えました。

大正アゼリアの舞台、月田さんはお優しくなられたように感じました。以前はとてもシャイでいらした月田さんがお優しさを自然に外に出されるようになられたのでしょうか。辛いご経験を経られて深く大きく包み込むような舞台を演じられているように感じました。生きる歓び、哀しみ、以前にも増して聴き手に響いてくる歌声。「アア良かった！」熱い塊が喉元に込み上げました。

月田さんご自身とそれに繋がる（月田さんのご存じない）私の周囲、諸々の出来事が舞台を見上げる胸に迫って来ました。私も歳を重ねて涙もろくなっちゃったようです。

堺能楽堂の舞台の「アマリア・ロドリゲス物語」の秀子さんは、今までの舞台とは違う趣でしたが、ぐい

ぐい引き入れられてあっという間に時間が過ぎてしまいました。月田さんの歌われるファドに巡り会えて本当によかったと心からそう感じています。横浜に暮らすようになった娘も湘南、藤沢のライブに伺っているようです。大変なお手間の中お送り下さる手作りのCDは、温かくて素晴らしく、これからも繰り返し繰り返し聴き続けます。

思いがけない出会い、別れ、そして再会に喜び、悲しみ、人生は続いてゆく。歌い続けてよかったとつくづく思う。聴き続けてくださって、ありがとう。（月田）

月田秀子さんとの思い出

森本 佳明（大阪）

あれは今から約30年位前、大阪梅新のシャンソニエ・ベコーでシャンソンを歌っておられた頃からのファンであります。その頃、シャンソン以外に時々ファドの「暗いはしけ」を歌っておられたのが大変好評で、小生もこの時に初めてファドに魅せられました。この曲はベコーでよくリクエストをされていましたし、その頃はまだファド自身市民権を得られていない状況で、ファドがポルトガルの歌だと知った最初でした。しばらくして月田さんが本格的にファド歌手を目指し、ポルトガル・リスボンに留学するというので、壮行会が梅田ヒルトンプラザで盛大に挙行されました。帰国後、月田秀子さんのファンクラブができ、初代会長にジャーナリストの黒田清氏がなられ（残念ながら2000年すい臓がんのため逝



去）、また稲畑産業(株)稲畑勝雄会長（ポルトガル国大阪名誉領事）の絶大なる後援を得て、大阪を中心にファド歌手として活躍を始められました。小生も大阪日本ポルトガル協会に入会して以降、ポルトガルに3回ほど旅行をし、ポルトガル、ファドに益々のめり込むようになりました。ポルトガル語の歌詞は半分もわかりませんが、あの歌っておられる声、姿から歌の持つ意味がひしひしと伝わってきます。あの雰囲気の凄さは彼女自身の身体から出てくるものでしょう。一ファンとしていつまでも浪速の地から応援を続けていきたいと思っています。

馬鹿なこと一杯 大きな心で包んでくれて ありがとう。

月田秀子ベストアルバム発売のお知らせ



今まで3年ごとに3000枚完売を目標に作ってきた7枚のCD(コレクションを入れると9枚)のうちから16曲を選んで、リマスタリングしたCDを作りました。サウンドエンジニアの堀切氏の並々ならぬご尽力で、元の音の数倍の迫力で生き生きと生まれ変わった月田のファドを是非聴いてみてください。各ライブ会場にて販売いたしますが、何よりも皆様の口コミでのご協力をお願いいたします。アマゾンサイト、ファド倶楽部のHPからのインターネットによる通信販売も可能です。

■収録曲目 ファド・メノール、マリア・リシュボア、悲しいポルトガル、川辺の民、どんな声で、インチャラー、友は遠く、愛する人へ、汽車は八時に出る、畏れ、コインブラ、難船、老いに寄せるバラード、暗いはしけ、涙、大河の一滴
全16曲

■定価：3,000円(送料無料) ■発売日：5月1日

■お申込み方法：ファド倶楽部宛てに同封のハガキ、FAX、TEL、e-mailにてお申し込みください。

月田秀子ファド倶楽部

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原1936-1 TEL:0466-47-3860 FAX:0466-47-8891 E-mail:cdonline@fado.jp

ギタリストのこと

ポルトガルギター不在の一番しんどい時、「何も命まで取られたわけじゃないんだから、がんばりましょうよ」と、なんとも心強い言葉で私の心を奮い立たせてくれたギターの蓮見昭夫のかわりに、5月から小林智詠が入ることになりました。1980年生まれ！アルゼンチン、スペインにてギター修行。民俗音楽をベースにして様々なアーティストと共演、意欲的に活動しているこれからが楽しいアーティストです。演奏を始める

と、日ごろの満面笑みをたたえた顔が、ある時は、鬼またある時は仏さまのようになる。というのが彼の演奏を初めて聴いた感想だ。音を身体で感じ身体ごとギターを抱えながら表現する、その姿に惚れました。笑うと目が線になるのはベースの岩田晶にそっくり。その笑顔に月田は救われそうです。ポルトガルギターの飯泉昌宏との新しいユニットにご期待ください！

今年から、関西のライブは、ポルトガルギターの上川保が復帰、(奇しくも小林智詠と同じ年の)水谷和大と共にがんばってます。月田も・・・！

バレンタインコンサート

「ポルトガルの愛愁」を終えて

お尻に火がつかないと動き出さないという計画性のなさから、コンサート寸前になってウッドベースの岩田晶に入ってもらうことを思いついた。幸いその日は空いているという。「いやー、久しぶり！」その一言で15年の空白の危惧は吹っ飛んでいった。ここが日本でなかったらハグして両のほっぺにチュダ。それほど熱く屈託のない再会のあいさつだった。相変わらず満面の笑顔はその場の雰囲気をも和ませてくれた。これは彼の人徳だ。けれど、食べ出したら決して箸を置かない大食漢の彼ではもはやなかった。健康のためとわが身を気遣う歳になったのだ。「僕、思わず涙が出ましたよ」終演後の彼の第一声を、私は嬉しく聞いた。その調子でがんばれ、晶ちゃん！桃楠、小桃のおとうちゃん！ちなみに彼は南方熊楠の末裔だ。

その日は、シャンソニエ「ジルベール・ベコー」のオーディションの時の審査員のT氏との30年ぶりの再会もあった。かつて読売テレビの名プロデューサーとして活躍していた彼が今回のコンサートの立役者だった。

またその日は、通っていた高校が近かったので、同級生たちとの40年ぶりの再会もあった。ありがたいことに集客に一役買ってくれたかつての級友もいた。

姓名判断からすると、私の運勢は見事に「凶」づくらしい、が、周囲の人の徳に恵まれてここまで来れたのだと、つくづく思う。

こんな素晴らしい感想も頂いた。

目を閉じて楽器と声のハーモニー、大空から、遠くの野の彼方から「生きの悲しみと苦しみ・・・しっかりと両手を広げてまっすぐ受け止める」そうして来たし、これからもこのまま生きていくわ・・・って、心の中でお話していると、1部で泣いてしまいました。貴女の歌ごえに、勝手に泣き・喜んでます。とても豊かな、温かい思いで帰宅しました。有難うございました。(M K子)

月田秀子のスケジュール

点がちょっとだけつながって、秋には、東北は仙台、秋田のツアーが実現しました。

湘南に移って2年目、アンコールに応じて、今年も逗子でのコンサートが決まりました。

月田の青春の思い出の地、京都・黒谷真如堂の塔頭「永運院」でのライブも決まりました。

お近くの皆様ぜひ聴きにきて下さい！

5月5日(祝) **東京・四谷「マヌエル」**

“昼下がりのファド” Vol. 3」

予約・問合せ：tel:03-5276-2432

ライブチャージ：2,500円

開場：12:00 開演：13:30

6日(木) **東京・四谷「マヌエル」**

“サウダーデの夜” Vol. 78」

予約・問合せ：tel:03-5276-2432

ライブチャージ：2,500円

開場：18:00

開演：1st.st.20:30~/2nd.st.21:30~

23日(日) **大阪・大正「アゼリアホール」**

“月田秀子きまぐれライブ Vol. 13”

予約・問合せ：tel:06-6552-7053

開場：14:00 開演：14:30

3,500円(前売)3,800円(当日)

24日(月) **神戸「サロン・ド・あいり」**

予約・問合せ：tel:078-241-1898

料金：5,000円(料理・ドリンク付)

開場：18:00 開演：19:00

29日(土) **新潟・津南「ラテンフェスティバル」**

会場：ニューグリーンピア津南

ご予約・お問合せ：tel:025-765-4611

♪山菜とファドをお楽しみください。

6月 1日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

2日(水) “サウダーデの夜” Vol. 79」

予約・問合せ：tel:03-5276-2432

ライブチャージ：2,500円

開場：18:00

開演：1st.st.20:30~/2nd.st.21:30~

5日(土) **東京・銀座「わいんばー・ギンザ」**

予約・問合せ：tel:03-3572-7058

料金：8,000円(お料理・ワイン込)

開場：17:00 開演：17:30

♪銀座コリドー街にある日本一古いワインバーです。

7月 6日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

7日(水) “サウダーデの夜” Vol. 80」

8月 3日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

4日(水) “サウダーデの夜” Vol. 81」

9月 7日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

8日(水) “サウダーデの夜” Vol. 82」

25日(土) **京都・岡崎「永運院」** 夕暮れ時から

26日(日) **神戸「サロン・ド・あいり」**

27日(月) **大阪「帝国ホテル・チャペル」**

10月 5日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

6日(水) **東京・四谷「マヌエル」**

8日(金) **逗子文化プラザ「さざなみホール」**

23日(土) **仙台「法運寺」**

24日(日) **秋田** 詳細未定

11月 2日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

3日(水) **同上「昼下がりのファド」**

6日(土) **長野「小諸ユースホテル」**

18日(木) **大阪・南方「三裕の館」**

19日(金) **神戸「サロン・ド・あいり」**

20日(土) **京都「日本のきもの十」**

12月 7日(火) **東京・四谷「マヌエル」**

8日(水) **東京・四谷「マヌエル」**

<編集後記>

まるで来そうで来ない今年の春のように遅れに遅れた会報還暦号になりました。見事に失速しましたが、まだ止まるわけにはまいりません。還暦特集の投稿まだまだお待ちしています。昨年の中野蜜杖和尚、カーザ・デ・ケージョの斉藤敏明氏に続くように、3月、加藤克雄氏が亡くなった。享年66歳。お別れの会には月田のCDが流れていた。出棺のとき、彼の大好きだった「人生よありがとう」をそっと口ずさもうとしたが、声にならなかった。

「いつかね」の口約束をやめようと心に決めし友を送る日

■月田秀子ファド倶楽部ジャーナル第60号

■2010年4月18日発行

■神奈川県藤沢市葛原1936-1

TEL:0466-47-3860 FAX:0466-47-8891

e-mail:info@fado.jp <http://www.fado.jp/>